

平成 27 年度 事業計画

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

I 公益目的事業

[公 1 コンクリートに関する調査研究事業]

1. 調査研究事業

(1) 研究委員会所管の委員会

(A) 平成 27 年度継続する研究専門委員会

- 1) コンクリート中の気泡の役割・制御に関する研究委員会 (平成 26-27 年度)
- 2) あと施工アンカーの耐久性の評価方法の確立と設計の高度化研究委員会 (平成 26-27 年度)
- 3) コンクリート構造のせん断力に対する包括的照査技術研究委員会 (平成 26-27 年度)
- 4) コンクリートの確実な施工のための PDCA サイクル研究委員会 (平成 26-27 年度)

(B) 平成 27 年度新規の研究専門委員会

- 5) 実構造物への適用性を重視したセンサ技術の調査と体系化研究委員会 (平成 27-28 年度)
- 6) 性能規定に基づく ASR 制御型設計・維持管理シナリオに関する研究委員会 (平成 27-28 年度)
- 7) 構造物の耐久性向上のためのブリーディング制御に関する研究委員会 (平成 27-28 年度)
- 8) 高温環境下におけるコンクリートの性能評価に関する研究委員会 (平成 27-28 年度)
- 9) 建設分野へのジオポリマー技術の適用に関する研究委員会 (平成 27-28 年度)

(2) 技術委員会所管の委員会

- 1) マスコンクリートソフト作成委員会 (平成 27-28 年度)
- 2) コンクリート基本技術調査委員会 (平成 26-27 年度)
- 3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会 (平成 26-27 年度)
- 4) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂調査委員会 (平成 26-27 年度)
- 5) サステナビリティ委員会 (平成 26-27 年度)

(3) 支部研究委員会

- 1) (北海道支部) 積雪寒冷地におけるコンクリート補修工法的设计施工に関する研究委員会
(平成 26-27 年度)
- 2) (近畿支部) 暑中コンクリート工事の現状と対策に関する研究専門委員会
(平成 26-27 年度)
- 3) (四国支部) 各種混和材料のコンクリートへの積極利用による高性能の付与に関する研究委員会
(平成 26-27 年度)
- 4) (四国支部) 四国の生コン技術力活性化委員会 (第 2 期) (平成 26-27 年度)
- 5) (四国支部) 四国のコンクリート構造物インフラドッグ実現に向けた調査研究委員会
(平成 27-28 年度)
- 6) (九州支部) 建設材料としてのジオポリマーに関する研究専門委員会
(平成 26-27 年度)
- 7) (九州支部) 「コンクリート埋込アンカーの信頼性向上」研究成果報告委員会
(平成 27 年度)
- 8) (九州支部) 「吹付け工法における施工性と品質の評価手法」研究成果報告委員会
(平成 27 年度)

○継続する研究専門委員会の計画

(1-A-1) JCI-TC141A コンクリート中の気泡の役割・制御に関する研究委員会

(平成 26-27 年度)

本研究委員会は、気泡の役割・制御・評価に関するフィールド調査、気泡に係わる試験方法のノウハウや課題を共有するための施工試験、コンクリートの運搬および締固めの過程で空気量がどのように変化するかを把握するための試験、および気泡間隔係数測定のパウンドロビンテスト等を実施する。また、平成 27 年 6 月 26 日 (金) に「コンクリート中の気泡の役割・制御」に関するシンポジウムを開催し、一般論文発表と委員会の中間報告を行う。

(1-A-2) JCI-TC142A あと施工アンカーの耐久性の評価方法の確立と設計の高度化研究委員会

(平成 26-27 年度)

本研究委員会は、土木・建築の付帯設備の留め付けやコンクリート構造物の耐震補強に数多く使用されている接着系、金属系のおと施工アンカーについて、以下の 3 つの WG を設置し、耐久性の評価方法の確立および設計へのフィードバックを目指すとともに、最新の数値解析による評価方法の高度化を図る。

- 1) 文献調査 WG : 最近の学術論文 (国内, 海外) の調査を行う。
- 2) 技術調査 WG : JCI ファスニング委員会 (~1994) 以降の技術の変遷についてまとめる。
- 3) 設計 WG : 国内外の各機関が保有する設計方法 (設計の前提, 作用, 安全係数, 照査方法, 照査式など) の比較を行う。

(1-A-3) JCI-TC143A コンクリート構造のせん断力に対する包括的照査技術研究委員会

(平成 26-27 年度)

本研究委員会は、鉄筋コンクリート構造物のせん断に対する照査法の高度化に資する情報を提供すべく、以下の2つのWGにて最新の研究成果の包括的な整理を進めており、最終的には土木・建築分野に共通のせん断破壊挙動の新たな評価法の提案を目指す。

- 1) マクロ式WG：土木・建築分野の各種せん断耐力算定法を整理し、合理的な設計および照査法を検討する。
- 2) FEMWG：非線形解析技術を用いて構造物のせん断破壊挙動の解明を試みる。

(1-A-4) JCI-TC144A コンクリートの確実な施工のためのPDCAサイクル研究委員会

(平成 26-27 年度)

本研究委員会は、より確実なコンクリートの施工を目指したPDCAサイクルのあり方について、以下の3つのWGを設置して検討を進める。

- 1) PDCAサイクルWG：確実な施工を確認する試験法を用いて施工のPDCAサイクルを実施する具体的な手法を検討する。
- 2) シミュレーションWG：過去の流動解析手法の問題点や施工のPDCAサイクルへの適用性を高めるために必要な事項を検討するとともに、新たに材料分離シミュレーションや振動下での充填シミュレーション法の開発・検討、さらには、二相流体モデルによる流動解析手法について検討する。
- 3) 試験規格WG：PDCAサイクルを実施するために活用されるフレッシュコンクリートの試験方法について、主に既提案の試験方法から本委員会の目的に合致したものを抽出し、規格化を検討する。

○新規の研究専門委員会の計画

(1-B-1) JCI-TC151A 実構造物への適用性を重視したセンサ技術の調査と体系化研究委員会

(平成 27-28 年度)

本研究委員会は、構造物や部材の施工品質や健全度を判断するために、実構造物において、計測の制約にとらわれず何をどの部位で計測し、どのような物性値で評価するかを明確にし、合理的な評価を実現するために必要な各種センサ計測技術を纏めることを目的とし、具体的には下記を実施する。

- 1) センサ・計測・ネットワーク技術の動向調査（シーズ技術調査）
- 2) 建設生産・維持管理の高度化に必要なセンサ技術の整理（ニーズ整理）
- 3) センサ技術を駆使した建設生産・維持管理の将来像分析（技術体系化）

(1-B-2) JCI-TC152A 性能規定に基づくASR制御型設計・維持管理シナリオに関する研究委員会

(平成 27-28 年度)

本研究委員会は、供用環境や岩石学的特徴に配慮した適切な試験法に基づくASR膨張モデリングを基軸に、構造物の重要度と、構造性能を含めた要求性能に応じたASR「制御」型の設計およ

び維持管理の連係シナリオの確立を目的に、既存の ASR 関連規準の改善とともに、岩石学的 ASR 診断手法および「ASR 診断の現状とあるべき姿研究委員会 (TC115FS, 2011-2013)」で有用性を見出したコンクリートプリズム試験 (CPT) による予測、抑制評価の一般化を図る。また、膨張予測を基にした、構造性能も含む要求性能に応じた ASR「設計」の可能性とフレームの提示を目指す。

(1-B-3) JCI-TC153A 構造物の耐久性向上のためのブリーディング制御に関する研究委員会

(平成 27-28 年度)

本研究委員会は、近年の骨材の品質低下や混和材料の不適切な使用等に起因する多量のブリーディングの発生が、構造物の性能低下の懸念を生じさせている状況に鑑み、ブリーディングの適切な制御による構造物の性能確保を目的に、次の 2 つの WG で検討を行う。

- 1) 影響評価 WG：既往の文献調査等からブリーディングがコンクリートの各種性能に及ぼす影響を調査・整理するとともに、ブリーディングに起因する不具合及び対策事例を調査・研究し、コンクリートの性能への影響を明確にする。
- 2) 制御技術 WG：使用材料・配（調）合・施工・環境条件等がブリーディング特性に及ぼす影響要因を調査・整理し、ブリーディングの制御技術の検討およびブリーディングの試験方法の検討、制御方法とその展開について整理する。

(1-B-4) JCI-TC154A 高温環境下におけるコンクリートの性能評価に関する研究委員会

(平成 27-28 年度)

本研究委員会では、コンクリートの爆裂抵抗性試験方法の提案を行い、爆裂メカニズムの解明と、火害を受けたコンクリートの物質侵入抵抗性(塩分浸透抵抗性)について下記の WG を設置して検討を行う。

- 1) コンクリートの爆裂抵抗性試験方法 WG：リング拘束試験による爆裂抵抗性試験方法について加熱試験を実施し、RC 実部材の耐火試験の実績のある配合における試験結果の比較を行う。
- 2) 火害後のコンクリートの耐久性評価 WG：火害後の物質侵入抵抗性を塩分浸透性で評価する実験を行い、耐久性指標を検討する。加えて、現場での火害診断試験についても検討する。

(1-B-5) JCI-TC155A 建設分野へのジオポリマー技術の適用に関する研究委員会

(平成 27-28 年度)

本研究委員会では、中低レベル放射性物質（セシウム等の重金属）の固定化、増加する産業廃棄物の転用、セメントコンクリートに対する製造時 CO₂ の低減化といった建設分野に関わる課題解決に資するため、ジオポリマーに関する既往の研究成果を結集し、迅速かつ効率的なジオポリマー研究の深化を図ることを目的として、反応機構や配（調）合に関わる基礎研究、材料や建材としての性能評価、重金属固定化技術といった応用研究についてとりまとめる。

○技術委員会所管の委員会の計画

(2-1) マスコンクリートソフト作成委員会

本委員会は、温度応力に加えて、湿気移動を考慮した乾燥収縮、自己収縮を考慮した応力解析ソ

フトJCMAC3と、JCMAC1,2統合版のバージョンアップ、JCMAC関連ソフトのサポートおよび普及を図るため、以下の活動を行う予定である。①JCMAC3-U(温度および乾燥収縮ひび割れを考慮した非定常の保有耐荷力解析が実施できるソフト)の開発、マニュアル作成、リリース、②JCMAC3ひび割れ幅解析追加機能作成、③JCMAC3、JCMAC1,2のサポート、④New JCMAC1,2(仮称)リリースとサポート、⑤JCMAC3講習会(2回開催)、⑥JCMACの普及活動

(2-2) コンクリート基本技術調査委員会

コンクリートの施工工程における「施工計画」、「製造・運搬」、「型枠・支保工」、「鉄筋工」、「打込み・締め固め」、「仕上げ」および「養生」の一連のコンクリートの技術ごとにWGを編成し、それぞれに関連する基本技術を整理する。本年度は養生WGの成果を発信するために講習会を計画する。また、準備工WGおよび製造WGにおいては、型枠・支保工における基本技術およびコンクリート製造時の課題を整理し、技術者に必要な情報を取りまとめ、会誌、HP、講習会を通じて広く発信する。

(2-3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会

本年度は、コンクリート構造物の劣化現象の精緻化を図った「LECCA2プロ版」ならびに、その劣化現象の3次元解析を可能とする「LECCA3」を平成28年3月にリリースするための作業を中心に活動を行う。具体的には、3次元解析に対応できる飛来塩分量推定等の塩害環境評価モデル、塩分浸透予測モデル、水分移動モデル、ならびに鉄筋のマクロセル腐食モデル等の構築とシステムへの組み込みを行う。この他、①LECCAシリーズに組み込む補修材の物質移動特性値を適切に評価できる評価試験方法の開発、②LECCAシリーズのアウトプットを構造物の構造解析に連結可能とするための方法に関する検討、③LECCAシリーズの英語版(マニュアル・理論解説書を含む)の作成等を行う。

(2-4) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂委員会

「マスコンクリートのひび割れ制御指針2016」の刊行に向けて、本年度は指針改訂分科会を中心に活動を行う。改訂の主たる検討事項は、①DEF(Delayed Ettringite Formation)の制御指針への取り込み、②コンクリートの若材齢物性設計用値評価式の適用拡大、③温度ひび割れ指数簡易評価式の精度向上、④温度ひび割れ発生確率図の適用性向上、⑤温度ひび割れ制御方法の既往実績の取り込み、⑥本制御指針の海外普及のための諸外国の材料規格の反映などである。また、国際委員会と連携し、本委員会終了後に開催を予定するJCI-RILEM国際ワークショップの開催に向けた準備を進める。

(2-5) サステナビリティ委員会

教科書検討WG、評価指標検討WG、評価ツール検討WG、環境士検討WG、およびサステナビリティフォーラムで活動を行う。教科書検討WGでは教科書の内容の充実と問題の精査・追加を、評価指標検討WGでは引き続きサステナビリティ宣言8項目の評価指標開発を、評価ツール検討WGでは土木・建築の双方でより使いやすい評価ツールの開発を、環境士検討WGでは「コンクリート環境士(仮称)」資格制度の創設に向けての環境整備ならびに調査報告書および提案書の作成を、サステナビリティフォーラムでは業界内でのサステナビリティ理解の浸透を図る活動を、それぞれ

行う。

2. 標準化事業

標準化委員会所管の委員会

- (1) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会
- (2) ISO/TC71 対応国内委員会
- (3) JCI 規準委員会
- (4) コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント JIS 原案作成委員会（仮）

(1) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

- 1) 次の JIS の改正原案をまとめる。
 - ・ JIS A 1145:2007 骨材のアルカリシリカ反応試験方法—化学法—
 - ・ JIS A 1146:2007 骨材のアルカリシリカ反応試験方法—モルタルバー法—
 - ・ JIS A 1149:2010 コンクリートの静弾性係数試験方法
- 2) 2016 年度に見直しが必要となる規格について改正要否を判定し、必要なものは改正原案の審議を行う。
- 3) 2017 年度に見直しが必要となる規格について、改正要否の検討を開始する。

(2) ISO/TC71 対応国内委員会

- 1) ISO/TC71 および各 SC への対応
本年度に予定されている ISO/TC71 総会および各 SC の会合等に、SC 議長・幹事・WG コンビーナとして参加し、会の運営を図る。また、併せてエキスパートを派遣し日本の意見を主張する。
- 2) ISO/TC71 の SC 幹事国および SC 議長業務の遂行
次の SC の議長・幹事・コンビーナの役割を継続遂行する。
 - ・ SC6 (コンクリートの新しい補強材)：議長，幹事およびコンビーナ (WG3)
 - ・ SC7 (コンクリート構造物の維持および補修)：議長およびコンビーナ (WG4)
 - ・ SC8 (コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント)：議長，幹事およびコンビーナ (WG4)
 - ・ SC5 (コンクリート構造物の簡易設計標準)：コンビーナ (WG6)
- 3) 各種 ISO/TC71 からの各種提案への対応
国内関係機関と連携し、ISO/TC71 から提案される各種規格案等の投票に対応する。
- 4) 新規 ISO 規格の提案
昨年度に引き続き、日本から提案した次の ISO 規格案について各国との調整を図り、早期の規格化を図る。
 - ① コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント

- ② コンクリート補強用短繊維（高分子系）材料
- ③ コンクリート構造物補修・補強用材料
- ④ コンクリートおよびコンクリート構造物の環境ラベリング
- ⑤ コンクリート構造物の耐震診断および耐震補強ガイドライン
- ⑥ 水道用プレストレストコンクリートタンクの簡易設計方法
- ⑦ 壁式鉄筋コンクリート造建物の簡易設計法

(3) JCI 規準委員会

研究委員会等が提案した規準案・指針案に対し、標準化委員会へ報告するとともに、合同委員会の設置を要請する。

(4) コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント JIS 原案作成委員会（仮）

コンクリート及びコンクリート構造物に関わる環境側面と環境配慮のあり方の明確化および環境負荷の継続的な削減のための環境影響評価方法のルール化を国内で積極的に押し進めるため、一般財団法人日本規格協会 JIS 原案作成公募に採択された場合は、次の既存 ISO の JIS 化について検討する。

- ① コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント 第 1 部：基本原則
- ② コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント 第 2 部：システム境界及びインベントリデータ

3. 国際化事業

- (1) fib に代表委員を派遣する。
- (2) ACI に代表委員を派遣する。
- (3) RILEM/TAC 会議に代表委員を派遣する。
- (4) ACI と協力してジョイントセミナーを行うための準備を行う。
JCI-ACI Collaboration Committee にて JCI-ACI のジョイントセミナーの準備を行う。
- (5) ACF へ国際委員会等の代表委員を派遣するとともに、諸事業活動を積極的に支援する。
 - ・ ACF 主催 フォーラム・セミナー（サステナビリティ関係）
 - 4 月 20 日～21 日（中国・福州）
 - 10 月 6 日（インド・カルカッタ）
 - ・ ACF 正副会長会議：7 月 11 日（東京）
 - ・ ACF Executive Council 会議：
 - 4 月 24 日（タイ・バンコク）
 - 10 月 6 日（インド・カルカッタ）
 - ・ ACF 技術委員会：10 月 8 日（インド・カルカッタ）
- (6) OWICS（シンガポール）国際会議の支援を行う。

(7) ACF 対応委員会

ACF の活動に積極的に関与するべく、上記会議へ委員を派遣するほか、アジアコンクリートモデルコードについての検討を行う SubWG を設置し、ISO/TC71 対応国内委員会とも連携する。

(8) 東南アジア諸国にて開催される, Joint Seminar of Practical Guideline for Investigation, Repair and Strengthening of Cracked Concrete Structures に、講師としてひび割れ補修補強指針普及委員会の委員を派遣する。

(9) コンクリート構造物の再生および保全に関する国際会議 (International Conference on the Regeneration and Conservation of Concrete Structures, RCCS) 実行委員会にて、2015 年 6 月の開催に向けた準備を行う。

(10) 2015 年に開催される第 21 回 ISO/TC71 総会および各分科会に ISO/TC71 対応国内委員会から委員を派遣、国内審議団体として日本の意見を強く主張する。

4. 受託研究事業

(1) 建築物における省エネルギー化を加速するコンクリート構造物の環境設計方法およびコンクリート製品の評価方法に関する国際標準の開発を目的とした受託研究業務を、ISO/TC71 対応国内委員会にて実施する。

(2) 接着系あと施工アンカーの耐アルカリ試験方法の検討を行い、耐アルカリ性の判定基準の作成に資する試験方法の提案を行う。

(3) 長崎端島の居住施設等の補修工法について検討を行う。

5. 出版事業

下記の出版物を刊行する。

(1) 第 48 回コンクリート技術講習会テキスト「コンクリート技術の要点' 15」

(2) 2015 年度コンクリート技士研修テキスト

(3) コンクリート診断士講習会テキスト「コンクリート診断技術' 16」

(4) Journal of Advanced Concrete Technology

英文ジャーナル “Journal of Advanced Concrete Technology” (電子公開)

(5) コンクリート工学年次論文集 第 37 巻 2015 年 (DVD 版)

(6) Technical Committee Reports 2015 (JCI 研究委員会報告書要旨)

(7) 次の研究報告書を刊行する。

1) コンクリート構造物の最先端診断技術に関するシンポジウム論文集/委員会報告書

2) 混和材を大量使用したコンクリートのアジア地域における有効利用に関する研究委員会報告書

3) 物理化学的解釈に基づく電気化学的計測手法の体系化に関するシンポジウム 委員会報告書・論文集

4) コンクリートの技術基準に関する情報活用手法研究委員会報告書

6. 会誌発行事業

(1) 会誌「コンクリート工学」

「コンクリート工学」を毎月1回刊行して会員に頒布する。

特集テーマは次のとおりである。

- | | |
|------------------|----------|
| 1) コンクリートの「見える化」 | 平成27年5月号 |
| 2) 創立50周年記念特集号 | 平成27年9月号 |
| 3) (未定) | 平成28年1月号 |

会員には発刊1年後に電子公開し、非会員には3年後に電子公開する。

(2) コンクリート工学論文集

コンクリート工学論文集を電子公開する。

7. 広報事業

(1) 広報活動

公正で開かれた活動を推進するため、本学会の活動状況、運営内容、財務資料等を積極的に公開する。

社会一般に向けた啓蒙活動として、広報普及委員会のもとで JCI ホームページの内容向上を図ると共に、会誌「コンクリート工学」、パンフレット(和文、英文)、JCI 紹介用 DVD(日英バイリンガル版)等により本学会の活動状況等について広報活動を行う。

関連業界紙の記者を交えた記者懇談会を定期的を開催して、本学会の活動状況の広報活動を行う。

(2) 普及活動

- 1) コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針普及委員会

本指針の国内・海外講演会等の実施および次回改訂版の発行準備に向けた活動を実施する。

また、質問対策や内容修正については、前年度に引き続き必要に応じた対応を行っていく。具体的には以下の活動を予定している。

- ① 指針2013版に対する質問対策や修正対応
- ② 国内・海外講習会(鹿児島、新潟、広島)の国内3箇所、ミャンマー、台湾、マレーシア、カンボジアの海外4箇所)の実施、および講師派遣要請への対応
- ③ 次回改訂版の内容検討
- ④ 国内・海外事例の情報収集
- ⑤ より使いやすいひび割れ判定ソフトの作成

- 2) 海水利用研究普及委員会

2012～2013年度に活動した「JCI-TC121A コンクリート分野における海水の有効利用に関する研究委員会」の活動成果である委員会報告書の英訳を行う。

(3) 電子情報化

1) 電子情報化委員会

本学会全体に関わる情報の電子化はほぼ当初の目的を達成したため、更なる社会のニーズに対応できるよう、本学会ホームページおよびメールニュースなどの IT を活用した情報発信の活性化を担う新委員会（情報コミュニケーション委員会）に大部分の事業を移すとともに、情報の電子化に関する本委員会の事業は縮小する。本年度以降の事業は、本学会事務局の要請に基づいて行う。

2) 情報コミュニケーション委員会

本委員会では、本学会ホームページのコンテンツの企画立案および運営管理を継続的に行い、会員や技術者に向けた有益な技術情報、コンクリートに興味のある学生への教材や講座、ウェブを利用した学生と企業のコミュニケーション、学会誌のタイアップなどを盛り込んだ定期的なホームページ更新による情報発信および広報活動を主な事業活動とする。具体的には以下の内容を予定している。

- ① JCI ホームページの編集方針，企画・調査，原稿執筆に関する議論
- ② 一般向けおよび会員向けコンテンツの定期更新
 - ・ 施工現場の紹介や現場見学の報告に関するコンテンツ
 - ・ コンクリート関連企業の開催イベント紹介・参加報告
 - ・ 会誌アンケートの結果による人気記事特集
 - ・ コンクリート技士・診断士に関するコンテンツ
- ③ メールニュースの作成および配信
- ④ 研究委員会報告書のデジタルアーカイブ化

(4) JCI 創立 50 周年記念事業

JCI 創立 50 周年記念事業実行委員会の、総務部会、講演部会、出版刊行物部会、DVD 作成部会およびアンケート作成部会にて下記記念事業を実施する。

- ・ 記念式典：2015 年 7 月 12 日，場所：日本都市センター
- ・ 国際シンポジウム：2015 年 7 月 13 日，場所：日本都市センター
- ・ 記念誌および写真集を JCI ホームページにて公開
- ・ DVD（教育編，新技術編）の作成と発刊
- ・ アンケートの実施と公表

また、記念事業の一環としてコンクリート構造物の再生および保全に関する国際会議（International Conference on the Regeneration and Conservation of Concrete Structures, RCCS）の準備を進める実行委員会を所管する。

8. 特別委員会

コンクリートにおける未利用資源の利用拡大に関する特別委員会

昨年度に引き続き、がれきの有効利用およびこれまでコンクリート工学分野において利用・活用が進んでいない資源の有効利用を目指した関連技術に関して調査・研究を行う。最終年度である本年度は、用途や供用される環境条件などに応じてコンクリートの品質要件を整理し、未利用資源を有効活用するためのマニュアルの整備を視野に入れ、WGを設置し報告書のとりまとめを行う。

[公2 講演会等事業]

1. 年次大会事業

コンクリート工学年次大会 2015（千葉）を7月14日（火）～16日（木）の3日間、千葉市の幕張メッセで開催する。

- 1) 第37回コンクリート工学講演会
- 2) 生セミナー：テーマ「これまでの50年、これからの50年」
- 3) 特別講演会：講師 内藤廣氏（東京大学名誉教授）
演題 「未定」
- 4) 見学会：2から3コースを予定
- 5) コンクリート工学会賞（作品賞）受賞者による記念講演
- 6) キング オブ コンクリート：学生によるコンクリートの力学的特性に関する競技を3部門（強度部門、ニアピン部門、曲げ靱性部門）行なう。
- 7) 懇親会：ホテルニューオータニ幕張

2. 講演会, 講習会, シンポジウム等

(1) コンクリート技術講習会

第48回コンクリート技術講習会を10月に東京など全国7都市8会場において開催する。

(2) シンポジウム・セミナー・講演講習会

研究委員会報告会, シンポジウム等を次の通り開催する。

- 1) 「性能設計対応型ポーラスコンクリートの施工標準と品質保証体制の確立研究委員会」報告会
日 時：6月19日（金）13:00-16:50
場 所：中央大学駿河台記念館
- 2) コンクリート中の気泡の役割・制御に関するシンポジウム
日 時：6月26日（金）13:00-16:50
場 所：JCI 会議室

- 3) コンクリート構造物の最先端診断技術に関するシンポジウム
日 時：7月30日(木)
場 所：東京理科大学 森戸記念館
- 4) 「コンクリートの技術基準に関する情報活用手法研究委員会」報告会
日 時：8月25日(火)
場 所：品川区立総合区民会館「きゅりあん」小ホール
- 5) 「物理化学的解釈に基づく電気化学的計測手法の体系化に関する研究委員会」シンポジウム
日 時：9月7日(月)
場 所：東京(予定)
- 6) 「混和材を大量使用したコンクリートのアジア地域における有効利用に関する研究委員会」報告会
日 時：10月9日(金)
場 所：東京(予定)
- 7) 「既設コンクリート構造物の維持管理と補修・補強技術に関する特別委員会」報告会
①日 時：未定
場 所：東京(予定)
②日 時：未定
場 所：大阪(予定)
- 8) 「コンクリート基本技術調査委員会養生WG」報告会
日 時：未定
場 所：東京(予定)
- 9) 「マスコンクリートソフト作成委員会」セミナー
①初級者セミナー
日 時：未定
場 所：東京(予定)
②中級者セミナー
日 時：未定
場 所：大阪(予定)
- 10) (北海道支部) 積雪寒冷地の既存コンクリート構造物に適用する非破壊・微破壊試験方法
研究委員会 報告会
日 時：6月開催予定
場 所：未定
- 11) (東北支部) 東北支部20周年記念事業
日 時：未定
場 所：未定

- 12) (関東支部) 支部総会特別講演会
日 時 : 5月15日 (金)
場 所 : 東京理科大学 森戸記念館
① 「ボスポラス海峡横断トンネル」
講 師 : 今石 尚氏 (大成建設(株))
② 「軍艦島の歴史などを含めたコンクリート工学」
講 師 : 濱崎 仁氏 (芝浦工業大学工学部建築学科)
- 13) (中部支部) 中部支部主催講演会 (2回)
日 時 : 未定
場 所 : 未定
- 14) (近畿支部) 特別講演会
日 時 : 5月上旬 (H27年度支部総会の当日)
場 所 : 大阪市内 (予定)
演 題 : 未定
- 15) (近畿支部) 若手研究プロジェクト推進WG シンポジウム
日 時 : 6月中旬
場 所 : 大阪市内 (予定)
- 16) (近畿支部) セメント・コンクリート関西発表会 2015 (共催 : コンクリート研究会)
日 時 : 平成27年 秋
場 所 : 大阪市内 (予定)
- 17) (中国支部) 特別講演会
日 時 : 5月25日 (月) 15:50-16:50
場 所 : 広島工業大学広島校舎 (201室) (広島市)
演 題 : 未定
講 師 : 未定
- 18) (中国支部) 研究委員会報告会
日 時 : 5月25日 (月) 14:40-15:40
場 所 : 広島工業大学広島校舎 (201室) (広島市)
演 題 : コンクリート構造物の目視点検への情報技術活用調査研究委員会最終報告
報告者 : 江本久雄 助教 (山口大学)
- 19) (四国支部) 特別講演
日 時 : 4月14日 (火) 16:30-17:30
場 所 : パールガーデン (高松市福岡町2-2-1)
演 題 : 「ノーベル賞に繋がった徳島の産学連携・考」
講演者 : 藤井 章夫 氏 (徳島大学産学官連携推進部 客員教授)
(元日亜化学工業(株)取締役・知財部長)

- 20) (四国支部) コンクリート教育助成に対する活動報告①
 日 時：4月14日(火) 15:50-16:20
 場 所：パールガーデン(高松市福岡町2-2-1)
 演 題：未定
 講演者：未定(高知県立高知工業高等学校)
- 21) (四国支部) コンクリート教育助成に対する活動報告②
 日 時：4月14日(火) 16:20-16:30
 場 所：パールガーデン(高松市福岡町2-2-1)
 演 題：「第8回コンクリート甲子園」
 講演者：尾寄秀典(香川県立多度津高校 教諭)
- 22) (四国支部) 生セミナーin徳島
 日 時：未定
 場 所：未定
- 23) (四国支部) 「塩害劣化を受けた鉄筋コンクリート構造物の耐荷力評価委員会の成果報告会」
 日 時：未定
 場 所：未定
- 24) (四国支部) JCI 四国支部設立10周年記念事業
 日 時：未定
 場 所：未定
- 25) (四国支部) 第9回コンクリート甲子園
 日 時：平成27年12月(予定)
 場 所：香川県生コンクリート工業組合
- 26) (九州支部) 特別講演会
 日 時：4月24日(金)
 場 所：福岡リーセントホテル
 演 題：「廃墟か、遺産か、初源的建築への遡行」
 講 師：藤原恵洋教授
 (九州大学大学院芸術工学研究院芸術工学専攻環境・遺産デザインコース長)

3. 国際会議、国際シンポジウム等

- (1) コンクリート構造物の再生および保全に関する国際会議(International Conference on the Regeneration and Conservation of Concrete Structures, RCCS)を開催する。
 会議開催日：2015年6月1~3日, 場所：長崎ブリックホール(長崎市)
- (2) JCI 創立50周年記念事業の一環として、国際シンポジウムを開催する。このシンポジウムの中でACIと協力して第2回ジョイントセミナーを行う。

会議開催日：2015年7月13日, 場所：日本都市センター（東京）

[公3 表彰事業]

1. 学会賞

以下の5つの学会賞を贈り表彰する。

- (1) 本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する学術・技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文を対象に、その著者に対し「日本コンクリート工学会賞（論文賞）」を贈り表彰する。
- (2) 本学会刊行物に発表された論文あるいは報告等のうち、コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文あるいは報告等を対象に、その著者に対し「同（技術賞）」を贈り表彰する。
- (3) コンクリート構造物の美的価値、創造性および環境との調和において技術面も含めて優れている造形物を対象に、その構築に貢献した者に「同（作品賞）」を贈り表彰する。
- (4) 本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する独創性、萌芽性および将来性のある優れた論文を対象に、40歳未満の著者に「同（奨励賞）」を贈り表彰する。
- (5) 本学会事業の発展のために長年にわたり顕著な貢献のあった会員に「同（功労賞）」を贈り表彰する。

2. 支部表彰

- (1) 支部功績賞, 支部優秀学生賞を表彰する。(北海道支部)
- (2) 論文賞・技術賞・功労賞・奨励賞・作品賞の対象者を募集し、優秀な作品や功績のあった会員に対して表彰する。(東北支部)
- (3) 支部奨励賞の対象者を募集し、コンクリートに関する優れた論文あるいは報告の著者（支部会員）に対して表彰する。(近畿支部)
- (4) コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をなした中国支部所属の個人を対象に「コンクリートマイスター認定者」とする。(中国支部)
- (5) 九州・沖縄地区の大学, 大学院, 高等専門学校において、コンクリートに関する優れた研究成果を上げた卒業生, 修了生に支部長賞を与える。(九州支部)

II 収益事業

[収1 資格付与事業]

1. コンクリート技士・同主任技士資格制度事業

(1) コンクリート技士・同主任技士試験

コンクリート技士,同主任技士試験を11月29日(日),全国9都市において実施する。

(2) コンクリート技士・同主任技士の登録

コンクリート技士制度に基づいて,コンクリート技士,同主任技士試験合格者の登録,ならびに登録有効期間(4年間)満了となる資格者の申請により更新登録を行う。

(3) コンクリート技士研修

コンクリート技士制度に基づくコンクリート技士研修を,登録有効期間(4年間)満了となるコンクリート技士資格者および未登録者を対象として,7月1日(水)から8月28日(金)にかけて,全国19都市35会場において実施する。また,コンクリート主任技士研修を検討する。

2. コンクリート診断士資格制度事業

(1) コンクリート診断士講習会

コンクリート診断士講習会を2日間の会期で,4月2日(木)から4月28日(火)にかけて,全国9都市13会場において実施する。

(2) コンクリート診断士試験

コンクリート診断士試験を7月26日(日),全国9都市において実施する。

(3) コンクリート診断士の登録

コンクリート診断士制度に基づいて,コンクリート診断士試験合格者の登録,ならびに登録有効期間(4年間)満了となる資格者の申請により更新登録を行う。

(4) コンクリート診断士研修

コンクリート診断士制度に基づくコンクリート診断士研修を,登録有効期間(4年間)満了となるコンクリート診断士資格者および未登録者を対象として,10月に全国7都市9会場において実施する。

(5) 国土交通省技術者資格登録に向けて引き続き対応を行う。

[収2 その他の収益事業]

1. コンクリートテクノプラザ2015

コンクリート工学年次大会2015(千葉)と併行して,コンクリート関連企業および団体により,新製品・新技術等の紹介と情報交換を行う。

Ⅲ その他

1. 名誉会員の推挙

定款第 12 条に基づき, 本学会の目的達成に多大な貢献をした会員等に, 別に定める規則により総会の決議を経て, 名誉会員の称号を贈る。

2. 終身会員およびフェロー会員の創設

定款を改定し, 終身会員およびフェロー会員を創設する。

3. 定款・規則改定委員会

支部規定の改定の検討を行う。

4. 長期事業・財政安定化委員会

本学会の長期的かつ健全な事業内容および収支状況を実現するために必要な諸事業の見直し, 対策等を検討・答申する。

以上